

仙台西多賀病院 地域医療連携室だより

vol.59

新年のご挨拶

院長 武田 篤



新年明けましておめでとうございます。

▶ 本年も宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに世界中が巻き込まれてもうすぐ2年が経過します。当初、このような展開を誰が予想できたでしょうか？日常生活がすっかり様変わりし、一年を通してマスクを使用してソーシャルディスタンスを保つことが当たり前となりました。我々医療機関にとっては特に試練の2年間でした。当院には重症化リスクが高いと言われている高齢者や人工呼吸管理の必要な患者さん方が多数入院しておられます。これまで第○波と感染のピークが訪れる度に、絶対に院内に感染を持ち込まないことを第一優先として、薄氷を踏む思いで病院を運営して参りました。ICNを専任とするなど感染対策をより一層進めて参りましたが、幸いこの期間中に院内感染の拡がりを許さずに、安心・安全な病院環境を維持できて来たことについてはご協力を頂いて来たすべての皆様に感謝申し上げます。

日本国内についてはやや小康状態を示している様にも思われますが、海外では爆発的な感染拡大が未だ続いており、この原稿を執筆している12月初旬の現在、非常に感染力の高い新規のオミクロン株の急激な広がりにより注目が集まっております。治療薬の開発が進み、3回目のワクチン接種も進みつつありますが、未だ未だ楽観を許さない情勢と感じております。引き続き感染防御に最大限の注意を払いつつ病院運営に当たる所存ですので、変わらぬご支援を頂ければ幸いです。



～仙台西多賀病院の理念～「良い医療を安全に、心をこめて」

新年のご挨拶

看護部長 大川 禎子



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆さまには、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年では東日本大震災から10年の節目の年でした。あの震災を通して「人知を超えた災害の対処には、一人ひとりが持っている人間力、協調性、仕事に対する責任感が大切である」ということを学びました。まさに新型コロナの流行の中でも感じたことです。

看護職や介護職はどのような状況下においても、24時間患者さんのそばに寄り添い、命と生活を守るケアを行っていかねばなりません。当院でも感染防止対策や自己の健康管理を徹底し、感染をおこすことなくケアを実践し、長期入院患者さんとご家族とのタブレット面会や行事の継続など、制限下でも患者さんの生活がより良いものとなるよう1年間取り組んでくれました。

今年は4月に診療報酬改定があります。また、11月には病院機能評価の更新もあります。

どのような時にあっても「良い医療を安全に、心を込めて」を根幹に「安心して満足していただける確かな看護の実践」に努めて自ら考え判断し行動する力を備えた看護職の育成に取り組んでいきます。

今後とも地域の皆さまの温かいご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

PFMが導入されて

当院では2020年6月より外来から始まる退院支援を目的としたPFM（Patient Flow Management）が導入され、地域医療連携室に看護師2名が配属されました。

患者さんやご家族が安心して治療を受けることができることを目指して外来時から退院へ向けての問題解決に取り組んでいます。患者さんより「安心して入院を迎えられた」という嬉しいご意見にパワーをもらいながら日々活動しています。具体的な活動内容としては、入院の説明・入院基本情報の収集・入退院支援に係る書類作成・多部門との調整を行っています。整形外科・脳神経内科・脳神経外科外来診療にて入院が決まった患者さんに入院生活や手術関連の説明を行うとともに、患者さんの基本情報を聞き取り、入院前より病棟や関連職種との情報共有を図っています。また面談にあたっては説明時間や待ち時間が患者さんのご負担とならないよう外来スタッフと連携を図っています。今後も当院の目標である患者中心の安心・安全・質の高い看護が提供できるように活動して参りたいと思います。



第7回 北海道東北 筋強直性ジストロフィー臨床研究会に参加して

私は今回第7回北海道東北筋強直性ジストロフィー臨床研究会プログラムに参加し、飲水介助を通して患者さんの残存機能を生かしながら患者さんの望む生活に近づけ楽しみを見出すことができるように看護実践を行ったことを発表しました。今回参加した臨床発表会では看護師だけでなく医師、理学療法士、相談支援員、臨床工学技士など多職種が参加していました。多方面から患者さんの療養生活の中で楽しみを見出しQOLの向上ができるように関わり、さらに在宅療養を望む患者さんに対しては入院中に患者さんの不安を取り除けるような関わりを行っており幅広い分野で様々なことを学ぶ機会となりました。

南2F2病棟では筋強直性ジストロフィーの患者さんが多く入院されています。看護師は患者さんと接する機会が多く多職種との架け橋となれるように疾患の理解に努め、患者さんが気持ちよく療養生活が送れるような看護を提供できるようにこれからも関わってきたいと思います。

南2F-2看護師 新泉 友希



令和3年9月4日(土)にオンラインで開催された第7回北海道東北筋強直性ジストロフィー臨床研究会に参加し、一般演題の療養・福祉部門で優秀演題賞を受賞しました。今回は『重度慢性心不全を合併したDMD患者の「家に帰りたい」を叶えた多職種連携～相談支援専門員としての関わり～』と題し、強心剤の24時間持続投与、酸素流入、床上安静の状態でも自宅への退院を強く希望し、実際に在宅療養を叶えた患者さんの事例において、相談支援専門員としての関わりを振り返り、考察した内容を発表しました。当院では平成26年12月より相談支援事業所の指定を受け、相談支援専門員が入院、在宅の患者に対して障害福祉サービスの計画相談支援を担当しています。介護保険サービスというケアマネージャーの役割です。在宅療養の筋ジストロフィー患者さんの多くは病状やADL、家族状況等に応じて複数のサービスを利用しており、円滑な支援体制を構築するためには多職種、多機関での情報共有、連携が必須です。医療依存度が高ければ高いほど、支援者はどうしても安全、安心を重視したくなりますが、意思決定の主体はあくまでも本人です。医療も福祉サービスも、制度の上に成り立っており、思いだけでは支援しきれない問題がたくさんありますが、当院の理念である「良い医療を安全に、心を込めて」に基づき、これからも患者さんの思いをしっかり受け止め、理解し、支援を提供していきたいと思っています。

優秀演題賞の賞状は幹事病院である国立病院機構あきた病院の患者さんがデザインしてくださったとのこと。興味や関心を活かした素晴らしい支援の賜物だなあと、あたたかい気持ちと一緒に頂戴しました。

医療社会事業専門員 榊原 愛



第75回 国立病院総合医学会に参加して

私は第75回国立病院総合医学会で、パーキンソン病に関する高度な知識を持つパーキンソン病看護師の育成・教育プログラムの作成・運営についてポスター発表させて頂きました。今年もオンラインでの開催でしたが、WEB開催期間が約1か月あり他病院の発表をゆっくり見ることができ、学びを深めることが出来ました。今後もこのような学びを得られる機会を大切にしながら、看護師として更に成長したいと思えた貴重な経験となりました。

南2F-1病棟 副看護師長 菊地 舞

令和3年10月23日より第75回国立病院総合医学会がWebにて開催され、「栄養管理室におけるレベル0 インシデント報告体制の見直し及びインシデントレポート分析について」という演題でポスター発表をさせていただきました。

本来であれば総合型学会として仙台の会場にて他グループの方々と交流できる機会でしたが、シンポジウムや各発表を拝見し、総合医学会の盛り上がりやweb上でも感じられることができ、大変貴重な体験となりました。特にシンポジウム「栄養評価について」では、各施設での取り組みや諸先輩方の経験を踏まえたうえでの今後の展望等を聞くことができ、国立病院機構の管理栄養士として今後の指針となりました。またポスター発表では認知症や神経難病についてなど、現在の自身の業務で悩んでいることに対してのヒントを得られ、他職種で治療を行っていく上での必要な知識を深めることができました。今回の経験を日常業務に生かし、多くの患者さんのお役に立てるよう日々精進して参ります。

栄養管理室 栄養士 大槻 博人

10月23日から11月20日まで仙台において第75回国立病院総合医学会がオンライン開催されました。私はリハビリテーション関連のシンポジウムに演者として参加し、「臨床における研究活動」というテーマで発表を行いました。日常臨床における研究の必要性は多くの療法士が感じている一方で、研究の進め方が分からない、多忙な業務や家庭の都合上、研究のための時間を捻出することが難しいといった理由で研究活動に消極的になっている療法士が多いことも事実です。そこでシンポジウムでは、臨床現場の状況を共有するとともに、研究活動を展開していくために個人として、また組織としての体制の構築について提案させていただきました。議論の中では、教育制度の一つとして臨床研究をラダーに組み込んでいるNHOのブロックもあり、組織における研究の支援方法として非常に勉強になりました。臨床に従事する療法士一人で研究スキルを身につけるには限界がありますし、臨床研究は決して一人では出来ません。そのため、個々の研鑽を組織として支援するシステムと、併せて多施設共同研究などチームとして研究を促進させるシステム作りをNHOの強みを活かして進めていく必要があると考えています。私自身、未熟ななかで議論に参加させて頂きましたが、臨床における研究の進め方について改めて考える大変貴重な経験となりました。今後は政策医療を担う機関のスタッフとして、地域また世界に向けて研究成果を発信していけるよう精進して参りたいと思います。

リハビリテーション科 作業療法士 川崎 伊織

指導室

障害福祉サービス「医療型短期入所」のご紹介

当院の重症心身障害児者病棟（南1F-1・南1F-2）では在宅の重症心身障害児者の方を対象に、医療型短期入所事業を行っています。短期入所中は生活支援だけでなく平日には療育活動も提供しております。ご利用にあたって介護者の休養や健康上の問題、冠婚葬祭、レジャー等、ご利用の理由は問いません。各病棟1床ずつで同日ご利用いただける人数に限りがあるため、完全予約制となります。ご予約の方、新規でご希望・ご相談・ご紹介の方がいらっしゃいましたら当院療育指導室までお問合せ下さい。

仙台西多賀病院療育指導室 022-245-2111（代表）、7530（内線）7511（内線）

地域医療連携室

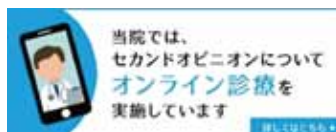
「オンラインセカンドオピニオン外来を実施しています」

パソコンやスマートフォンを使って診療を行うことを「オンライン診療」といいます。当院ではE-PARK社製オンライン診療システムを使った「オンラインセカンドオピニオン外来」を実施しております。患者さんは来院することなく都合のよい場所で診療を受けることができます。

当院のオンラインセカンドオピニオン外来は、他の医療機関で治療を受けている患者さんを対象に「現在の診断・治療に関して専門医の意見・判断を聞くことにより患者さんご自身の治療の参考にしていただく」ことを目的としています。

なお、当院で新たな検査や治療は行いません。診察は完全予約制で自費診療のため健康保険は適用されませんのでご注意ください。

詳しくは当院のホームページに掲載しておりますのでご覧いただければ幸いです。



詳細は当院ホームページより
ご確認ください

医療福祉相談室

医療福祉相談室の紹介

当院の医療福祉相談室を紹介します。

医療福祉相談室には医療ソーシャルワーカー4名、保健師1名が在籍しています。

医療費の支払いに関すること、仕事の継続や再就職に関すること、所得補償の制度に関すること、介護保険や身体障害者手帳等のサービスに関すること、自宅退院や施設入所に関すること等、日々、さまざまなご相談に対応しています。また、当院は仙台市の指定を受け、認知症疾患医療センターを開設しており、認知症の早期診断、早期治療、地域連携の推進、人材育成や情報発信を行っています。専従の保健師が中心となって、患者さんやご家族だけでなく支援者の方からのご相談にも対応しています。

病気や障害によって、患者さんやご家族は当たり前の日常を変えなくてはならない、変えざるを得ない状況になるかもしれません。それぞれの生活が安心で、安定したものに近づけるようにお手伝いさせていただきたいと思っています。そのためには地域の医療機関、事業所の皆さま方との連携、情報共有が欠かせません。顔の見える連携、声の通る連携を心がけておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



外来担当表

外来担当表

区 分			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	せばね	新患	古泉 豊	川原 央		山屋 誠司	国分 正一
		再来	国分 正一	国分 正一	川原 央	古泉 豊	国分 正一
			山屋 誠司	両角 直樹		鈴木 学	
				八幡健一郎			
	関節	新患			田村 則男	田村 則男 (第1・3・5週)	
		再来			大出 武彦 (第3水曜日休診)		田村 則男
	せばね・関節		須田 英明	須田 英明	須田 英明	須田 英明	
側弯症						両角 直樹 ※1	
脳神経内科	新患	馬場 徹	高橋 俊明	武田 篤	吉岡 勝	金原 禎子	
			田中 洋康		大泉 英樹		
	再来	武田 篤	吉岡 勝	武田 篤	大泉 英樹	田中 洋康	
		菊池 昭夫		高橋 俊明	金原 禎子		
内 科			午前 三浦 明 荻部 明彦 (循環器専門) ※2	長崎 明男 (第2・4週)			
リウマチ内科			星 陽介				
小 児 科			小林 康子 (成長発達)	小林 康子	午前 小林 康子 (乳児健診・予防注射) 午後 小林 康子	小林 康子	
脳神経外科			永松 謙一※3				永松 謙一※3
泌尿器科					東北大学医師 (第2・4週)	武弓 俊一	
遺伝カウンセリング							午後 荻部明彦または 高橋俊明 ※2
もの忘れ外来 ※4			大泉 英樹	武田 篤	馬場 徹	佐久間博明または 荒井啓行	金原 禎子
禁煙外来					武田 篤	荻部 明彦	
歯 科							佐藤 敦 ※5

令和4年1月1日 現在

※1 脊柱側弯症の新患者様のご紹介は、側弯症外来日（金曜）にお願い致します。

※2 内科火曜日の循環器専門外来及び金曜日の遺伝カウンセリング外来は完全予約制です。

※3 脳神経外科は主にパーキンソン病に関連した診療を行っています。

※4 もの忘れ外来は診療情報提供書が必須で完全予約制です。

※5 歯科外来は主に入院患者の診療を行っています。



独立行政法人国立病院機構
仙台西多賀病院

〒982-8555
宮城県仙台市太白区鉤取本町2丁目11-11

◎電話：022-245-2111(代表)

◎FAX：022-243-2530

◎URL：http://www.nishitagahara-hosp.jp/

地域医療連携室(直通)

◎電話:022-245-1810

◎FAX:022-245-1811

発行 行／仙台西多賀病院地域医療連携室
発行責任者／地域医療連携室長 高橋 俊明

※仙台地下鉄を利用して来院される場合は八木山動物公園駅または長町南駅をご利用ください。

※東北道を利用して来院される場合は仙台南ICをご利用下さい。
(東北道～山田ICまた、山田IC～東北道はご利用できません。)

